

当院のヘルニア手術

①鼠径部切開法（ダイレクトクーゲル手術）

②腹腔鏡下ヘルニア根治術（TAPP法）

2通りの手術を行っています。患者さんの希望を伺い、術式を決定しています。

入院期間は3～5日ほどです。

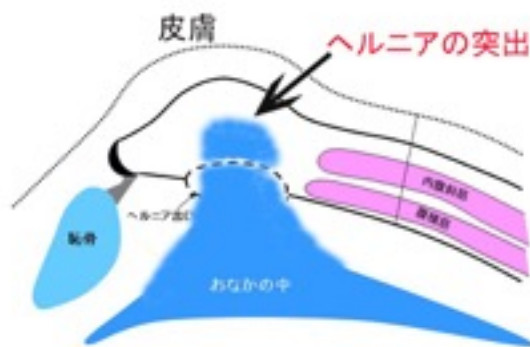
当院は年間70例ほどのヘルニアの手術を行なっています。

5割が局所麻酔や全身麻酔による鼠径部切開法、5割が全身麻酔による腹腔鏡手術です。

鼠径部切開法（ダイレクトクーゲル手術）

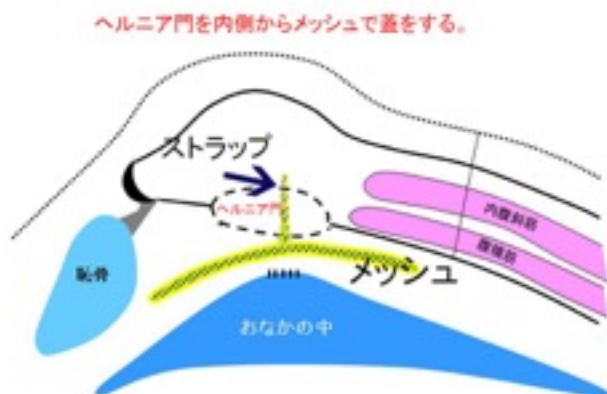
当院では形状記憶タイプのメッシュを挿入するダイレクトクーゲル法を中心に行っています。全身麻酔を基本にしています。高齢者や全身状態の悪い方は局所麻酔で手術を行っています。鼠径部の皮膚を3～4cm切開します。ヘルニアを覆う膜（ヘルニアザック、腹膜）を剥離して、元の位置に戻した後に腹膜前腔にダイレクトクーゲルメッシュを挿入します。メッシュを挿入するだけで穴の閉鎖が可能です。90才を超える高齢者や様々な基礎疾患をお持ちのかたにも安全に施行できます。手術時間は平均30分（20分～50分）と他の術式と比べて短いです。

診察を受けていただいてから、手術方法等を決定しています。

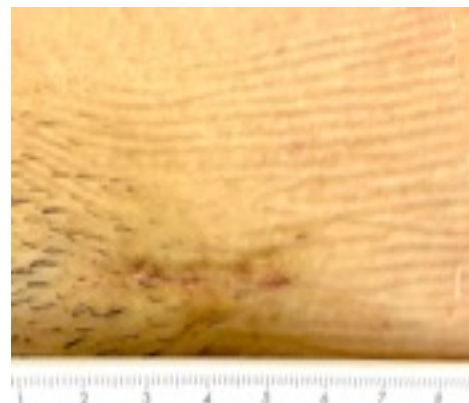


青く突出した部分（ヘルニア）をお腹の中に戻して、メッシュを挿入する。

下図の黄色がダイレクトクーゲルメッシュ。メッシュに遮られヘルニア門からブルーの部分は出なくなります。



術後6日目の創部。傷は小さく目立たない。4cm弱。溶ける糸で縫合しており抜糸は不要です。

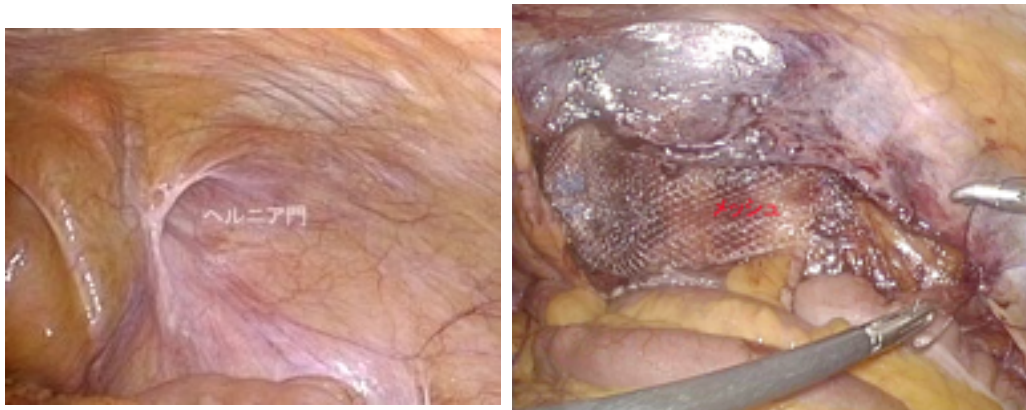


全身麻酔による腹腔鏡下ヘルニア手術（TAPP）

最近、この手術を希望されてこられる方も多くいます。おへそから小さなカメラをおなかの中に挿入して、おなかの中からヘルニアの穴（ヘルニア門）を専用のメッシュでふさぎます。

全身麻酔が必要で手術時間も鼠径部切開法に比べて長い傾向にあります（片方約1時間）。両側の鼠径ヘルニアには良い適応です。

腹部の手術の既往歴があると、腸管など癒着があり、手術に時間を要する場合があります。



お腹の中からメッシュでヘルニア門を塞ぐ。



当院で使用している腹腔鏡手術用のメッシュ。